

郷祭りにおける複数村落祭祀の成立

近江国蒲生郡を中心に

大塚活美

The Establishment of Multi-Village Festivals within Gou Festivals: The Case of Gamo-gun, Omi Province

- はじめに
- ① 蒲生郡の神社祭祀の類型
 - ② 村落と神社の歴史
 - ③ 神社祭祀と祭礼芸能の展開
 - ④ 複数村落祭祀の成立理由
- おわりに

【論文要旨】

いくつかの村落が集まって神社の大祭を行なう事例が各地で見られる。民俗学では、複数の村落が集まって祭礼を営む場合、村落間には用水などの共同利用が存在し、村と村の結び付きを確認するのが祭りであると考えることが多い。しかし、山野河海に多様な活動を展開する村と村の繋がりは、用水のみに収斂するものではない。そこで、本稿では複数の村落が集まって祭祀をする理由を、村落と神社の歴史の中に探ってみる。フィールドとしては、滋賀県蒲生郡を中心に取り上げた。

蒲生郡の神社の歴史をみると、古代の氏神社、式内社に始まるが、そのまま現在に繋がるものは少ない。中世になると、荘園領主による勧請社や在地の領主・小領主による勧請社が祀られる。祭祀の性格も、式内社が持っていた国家に関わる政治的な性格は薄れ、中世の諸社には荘郷の安穩を願う鎮守的な性格が濃厚になる。それらの神社は荘郷・村の領域の神として祀られ、野良・山の領域を祀る野神・山の神と併せて、村落の神祀りの新しい体系が成立した。一方、蒲生郡の村落の歴史も、古代村落が移

転・集村化して、中世前期には今日に繋がる村落のほとんどが成立していた。

中世の神社で祭礼を執行したのは、荘園や公領の住民であった。中世には住民のなかに小領主も含まれていたが、近世初期の兵農分離以降は農民が中心となる。住民たちは村人神主や宮座の制度を創設して神社を維持した。宮座の老若は、老が神事を主に担当し、若が渡御や芸能・警護を担当した。祭礼は、勧請社の本社における御旅所祭礼・芸能祭礼などの影響を受け、神輿渡御や風流芸能を取り入れたものになった。

複数の村落が共同して行動する理由には、政治的・経済的・社会的・文化的なさまざまな理由がある。郷祭りの場合は、荘郷内の複数の村落住民が、領域の神として荘郷鎮守を祀ることにより、村落が結びついたものである。このように、蒲生郡の郷祭りにおける複数の村落による祭祀の歴史は、中世の荘園・公領下の複数の村落住民が荘郷鎮守に集まって新しい祭りを営んだことに始まるといえる。